

業連だより

11月15日、業務連絡会議が行われた審議事項等はなく、山越新事務局長の進行で報告が行われた。

理事長からの次の言葉があった。

「迫撃砲の場外弾着が起つた。一般論だが、指揮官がすべて責任を負えず、命令で行っている射撃訓練の事故でも射手等が責を負う法体系である。指揮官としてはつらいことだ。英霊とは国のために殉じた人、特に戦死した人の霊を敬つてという言葉。国が慰霊をするのが本来だが、8月15日の全国戦没者追悼式は先の大戦でという形容が付く。少なくとも明治以降の日清、日露の戦いも含めた英霊に対し慰霊するのが当然ではないか。借行社はそれを考えていくべきであろう」

事務局長から「全国会長会同実施結果」について報告があった。各地の状況など意見交換し、将来体制検討の資を得ることができた。

廣瀬総務委員長から「平成30年度

借行社総会実施結果」について報告があった。総会は10月12日に行われた。参加者は昨年より増えて212名であった。法人会員に案内状を出したのが増加の要因。

新たに就任した若木慰霊・援護委員長より、「市ヶ谷台慰霊祭実施結果」につて報告があった。慰霊祭は、11月6日、市ヶ谷メモリアルゾーンにおいて厳粛に執り行われた。ご遺族・招待者を含め127名が参列した。

吉橋厚生委員長より「第9回借行社文化祭実施結果」について報告があった。11月8日～10日に作品展示、11日に芸能発表が行われた。展示は出展者37名、作品数81点で、来場者数100名。芸能発表は出演者9組26名。来場者数は48名であった。

事務局長より「平成30年度4団体『政策提言』」について報告があった。憲法改正から防衛体制強化、募集まで網羅した内容である。

林財務委員長より12月5日に予定されている「平成31年度予算調整会同実施要領」について報告があった。